



●書学書道史学会

会報

第 44 号

令和5年(2023)1月15日発行
 編集・発行
書学書道史学会
 広報局
 〒100-0003
 東京都千代田区一ツ橋 1-1-1
 パレスサイドビル 7F
 (株) 毎日学術フォーラム内
 TEL (03)6267-4550
 FAX (03)6267-4555
 MAIL maf-syogaku@mynavi.jp

第32回書学書道史学会大会を終えて

矢野 千載

第32回書学書道史学会大会が、令和4年10月29日(土)・30日(日)の両日にわたり、盛岡大学砂辺キャンパスD校舎にて開催されました。東北地方での開催でしたので、足を運んで下さる方が少ないのではないかと気を揉んでおりましたが、両日の延べ参加者数は対面とオンラインを合わせて1000名を優に超え、どうか体面を保つことができました。

ご記憶の方も多いと存じますが、コロナ禍がなければ第30回の東京国立博物館での大会の翌年、令和2年秋季に弊学会で第31回大会を開催する予定でした。しかし、コロナ禍のため令和2年度の大会は中止となり、昨年の第31回大会はオンライン開催でしたので、今大会は3年振りの対面形式に

よる開催でした。そして、オンライン配信も同時に行うハイブリッド型大会として実施されました。この間、学会内の組織改編と役員改選がありました。多くの皆様の継続的なご支援のもと、大会開催校の役儀を大過なく果たすことができましたことを心より感謝申し上げます。

さて、今大会では開会式・総会後に、初日は2本の研究発表及び記念講演、2日目は6本の研究発表がプログラム通りに行われました。研究発表のテーマは内容もさることながら、対象とする地域・時代も多彩で、①丁子成②尾川明穂、③井田明宏、④金貴粉、⑤権田瞬一、⑥下田章平、⑦矢野千載⑧福田哲之の各氏から研究発表がなされ、それぞれフロア内やオンラインからの質疑と応答により議論を深めました。近年定着したオンラインも重宝ですが、従来型の会場でのやり取りの良さも実感できた有意義な時間でした。

記念講演は、3年間お待ち頂いた宮澤賢治の実弟・清六の孫であられる宮澤和樹氏より「祖父・清六から聞いた 兄 宮澤賢治」と題して講演頂きました。岩手の誇る文学者・農芸化学者の賢治の弟を祖父に持つ講演者ならではの内容に加え、賢治の雨ニモマケズ手帳や絶筆二首等の文字資料を交えた貴重な講演でした。詳しい内容については講演要旨をご覧ください。

以上のように3年振りの対面形式での大会を開催することはできましたが、感染症対策のため、懇親会は行えませんでしたし、当初計画していた花巻方面でのエクスカージョンも実現できませんでした。また、会場校周辺の博物館・美術館案内では意を尽くせず、心残りに存じています。

次年度の大会は、愛知県の春日井市道風記念館及び文化フォーラム春日井を会場として開催の予定ですが、ウィズコロナ・アフターコロナ時代に相応しいより充実した大会となるよう念願しております。今大会での経験がその布石として一助となることができましたら誠に幸いです。

(副事務局長・会場校責任者)

宮澤和樹氏 「祖父・清六から聞いた 兄 宮澤賢治」 記念講演会報告

第32回書学書道史学会大会では、宮澤賢治の弟、宮澤清六の孫である宮澤和樹氏にご講演いただきました。宮澤和樹氏は岩手県花巻市に「林風舎」を経営され、宮澤賢治ゆかりの展示、店内のカフェスペースではクラシックやジャズのミニコンサート等を開催する他、国内各地を飛び回り、宮澤賢治に関する講演を中心とする顕彰活動を幅広く展開されています。

今回の講演では、祖父の清六から伝え聞いた宮澤賢治について、賢治直筆の資料や数多くの写真・資料を用いながらその人物像を浮き彫りにされ、わかりやすくお話をいただきました。講演要旨は以下の通りです。

◆宮澤賢治のルーツ

童話作家、詩人で知られる宮澤賢治は農芸化学や仏教（法華経）を熱心に勉強しました。従って、あらゆる物事の発想の根底には、いつもそれらがベースとなっていました。その上で童話や詩なども創造していくのです。例えば有名な作品に『銀河鉄道の夜』がありますが、これはアインシュタインの相対性理論と仏教を結びつけていると考えられます。アインシュタインの宇宙に対する考え方と仏教は、言葉こそ異なるものの共通するところがあります。宗教も化学や物理も、最後にはどこかで交わる。賢治はそういう風に考えていたのではないかと祖父は言っていました。



宮澤和樹氏

『銀河鉄道の夜』は、賢治の農林に関する教養や、宗教観、宇宙観などを総合して生み出されたものであると言えます。

◆『雨ニモマケズ』に込められた想い

宮澤賢治『雨ニモマケズ』は一般に詩として広く伝わっていますが、祖父からは『雨ニモマケズ』という文章は、作品として書いたものではなく、あくまでも、自分に向けて書いたものだ」と聞いています。これは、昭和6年11月3日に書かれたものが、本当はこういう風に生きたかった、ああいうことをもったかった、そういった願望を書き留めているものであると聞かされています。

また、文章中に「行ッテ」という言葉が何度も出てきますが、これは、どんなに自分が学問を身につけて、知識や知恵を持っていても、それを直接どこかで使わなければ意味がない。場に応じて自分が動いて行って、必要とする人に力を貸す。いわば実践することが大切なことなのだと考えていたのです。そのことは、賢治にとって一番大事な祈りだったと思われれます。

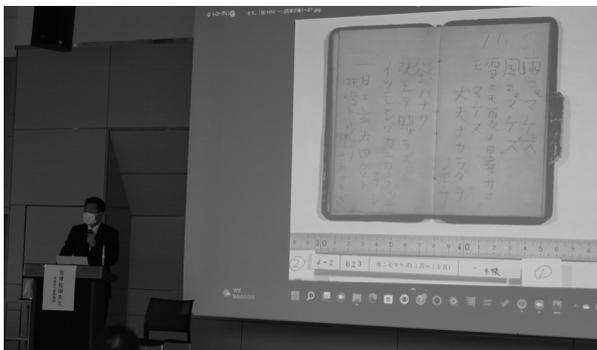
◆高村光太郎との関係

宮澤賢治が生前に出版した作品は、童話集『注文の多い料理店』と詩集『春と修羅』でした。どちらも思うように売れませんでした。偶然草野心平の手に『春と修羅』

が渡り、ひどく感動されたそうです。そして草野が敬愛していた高村光太郎にこれを読ませると、「もしかしらこの作品は自分の作品よりも後に残るものになるかもしれない」と周りの人に話していたそうです。

その後、祖父は空襲で駒込のアトリエを失った光太郎を花巻に呼び寄せました。光太郎が祖父に「花巻も空襲に備えた方が良い」と助言をしたことで、賢治の遺品の数々を守ることも出来ました。こうしたことから、祖父は「光太郎先生は本当に恩人なんだ」といつも言っていました。現在も残っている『雨ニモマケズ』碑の揮毫も光太郎が担い、賢治だけでなく賢治の父、政次郎や賢治の弟、清六さんとも年齢差を越えた深い交流が生まれました。

(文責／広報局 村田萌)



令和3年度会計決算報告書
(2021年4月1日～2022年3月31日)

	項目	決算額
収入の部	個人会員会費	2,429,000
	団体賛助会費	544,800
	その他の収入	169,479
	本年度収入 合計	3,143,279
	前年度繰越金	10,566,847
	前年度負債	△ 3,007,384
	収入合計	10,702,742
	支出の部	編集局経費
「学会展望」準備費		106,479
国際局経費		130,000
大会（研究発表）開催費		289,340
学術局経費		46,200
研究局経費		300,000
会報編集委経費		67,413
ホームページ委託費		220,000
会議費		57,200
選挙管理委員会費		92,280
名簿作成発行費		129,800
通信費		496,615
事務消耗品備品費		500,588
事務委託費		805,096
人件費		55,000
東洋学・アジア研究連絡協議会		2,000
本年度経費 合計		3,840,343
次年度繰越金		9,444,178
未払金		△ 2,581,779
支出合計		10,702,742

令和4年度予算案
(2022年4月1日～2023年3月31日)

	項目	予算額
収入の部	個人会員会費	2,500,000
	団体賛助会費	500,000
	大会参加費	100,000
	その他の収入	0
	本年度収入 合計	3,100,000
	前年度繰越金	6,862,399
	収入合計	9,962,399
	支出の部	編集局経費
「学会展望」準備費		100,000
渉外局経費		100,000
企画局経費		100,000
大会運営費（企画局）		300,000
例会運営費（企画局）		100,000
講師謝金費（企画局）		200,000
振興局経費		300,000
会報編集費（広報局）		100,000
ホームページ委託費（広報局）		250,000
会議費		50,000
選挙管理委員会費		0
名簿作成発行費		150,000
通信費		100,000
事務消耗品備品費		100,000
事務委託費		1,000,000
会計士人件費		55,000
東洋学・アジア研究連絡協議会		2,000
予備費		6,355,399
本年度経費 合計		3,607,000
次年度繰越金		0
支出合計		9,962,399

令和4年度総会報告

事務局

本年度の総会は、令和4年10月29日（土）、盛岡大学砂込キャンパスD201にて行われました。総会に先立ち、菅野智明企画局長の進行のもと大会の開会式が行われ、盛岡大学学長・高橋俊和先生よりご挨拶を賜り、続いて河内利治理事長より挨拶がありました。

総会は、事務局長の司会で進行了しました。最初に、名誉会員・西林昭一氏のご逝去について河内理事長より報告がなされ、黙祷を捧げました。審議においては、大橋修一名誉会員を議長として進められ、いずれの議案も承認されました。

◆審議事項

① 令和3年度会計決算報告、事業・活動報告、会計監査報告について

（増田知之会計局長、尾川明穂事務局長、丸山猶計監事）

② 令和4年度予算案、事業・活動計画案について

（増田知之会計局長、尾川明穂事務局長）

◆報告事項

① 各局報告

- ① 企画局 (菅野智明企画局長)
- ② 渉外局 (富田 淳渉外局長)
- ③ 振興局 (成田健太郎振興局長)
- ④ 編集局 (萱のり子編集局長)
- ⑤ 広報局 (高橋利郎広報局長)
- ⑥ 会計局 (増田知之会計局長)
- ⑦ 事務局 (尾川明穂事務局長)

*総会で配付した書類のうち、〈資料1〉「令和3年度収支報告書」、〈資料4〉「令和4年度予算案」（いずれも備考欄を除く）を本ページに掲げました。

2023年度 書学書道史学会例会 研究発表者募集要項

企画局

次年度の例会は、左記のとおり開催し、会員各位の研究発表を募ります。各位には、日頃の研究成果を意欲的かつ積極的に発表いただきたく、奮ってご応募ください。

記

- ①開催日／方法：2023年7月9日(日)午後／オンラインによるライブ配信とします。それに応じたIT機器を扱っていただきますので、ご承知おきください。
 - ②発表者数／時間：3名程度／各30～45分(発表20～30分、質疑応答10～15分)
『会報』43号で予告しましたように、この例会では、必要に応じ大会での研究発表よりも発表時間や質疑応答の時間を長めに確保し、議論を深めることも視野に入れています。発表時間は右記の範囲で希望者各位と個別に相談させていただきます。
 - ③申込方法：Eメールにて、左記お問い合わせ先までお申し込みください。件名には必ず「書学書道史学会例会発表申込(※発表希望者氏名を付す)」と明記してください。また本文の冒頭に「所属・氏名・連絡先」を記したのちに、発表内容の題目および発表内容の要旨をレジюме(800字程度)にまとめてご提出ください。
 - ④レジюме：原則として、ワープロ(テキスト形式、Wordファイル形式のいずれか)で作成し、申込時のEメールに、ファイルを添付して送信してください。
 - ⑤申込締切：2月28日(火) 必着
 - ⑥発表者の決定と連絡：3月～4月開催予定の理事会にて協議・決定し、採否の結果は個別に連絡いたします。
 - ⑦レジюме集の公開：5月発行予定の『会報』45号にて公開します。この内容はホームページにも掲出いたします。
- ※注記
・例会の発表者については、学会誌『書学書道史研究』第34号への投稿申込があったものとして扱われますので、改めて学会誌への投稿申込を行う必要はありません。
・学会誌への論文投稿締切は令和6年3月31日となっております。投稿後、原稿掲載の採否は論文査読委員会によって決定されます。

お問い合わせ先

書学書道史学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル7F(株) 毎日学術フォーラム内

TEL: 03-6267-4550 FAX: 03-6267-4555

Eメールアドレス: maf-syogaku@navi.jp

*なお、事務局(株)毎日学術フォーラム内)への電話でのお問い合わせにつきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部テレワーク実施に伴い、後日のご連絡となる場合がございます。

ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願い申し上げます。

各局報告

◆企画局

次年度の大会・例会について

次年度の例会は、上掲の「研究発表者募集要項」とおり開催します。また、大会は10月28日(土)・29日(日)に愛知県の春日井市道風記念館および文化フォーラム春日井で開催します。詳細は次号の会報でお知らせいたします。
(局長 菅野智明)

◆渉外局

香港故宫文化博物館の展覧会案内

2022年7月3日、香港の西九龍文化地区に開館した香港故宫文化博物館の開館記念特別展「國之瑰寶——故宮博物院藏唐宋元書畫」について、展示リスト、展覧会図録目録や、同館のウェブサイトを紹介しました。

関西中国書画コレクシヨン研究会 国際シンポジウム「中国書画」コレクシヨンの時空」 報呈書のご案内

2021年10月16、17日の2日間にわたり、関西中国書画コレクシヨン研究会設立10周年を記念した国際シンポジウム「中国書画コレクシヨンの時空」が、オンラインで開催されました。関西中国書画コレクシヨン研究会の公式ホームページで公開された報告書(PDF形式)をご案内しました。
J-STAGE

2022年10月刊行の『書学書道史研究』32号所収論考について、令和4年度末までにJ-STAGEに登載し、公開時には学会ホームページでお知らせいたします。
(局長 富田 淳)

◆振興局

研究促進助成金制度について

2022年度の募集において、研究計画書の申請が1件ありました。審査の結果、左記の1件が採択されました。

研究代表者：仲村康太郎

研究課題名：『篆隸文体』とその周辺資料に関する

書論史的研究

2021年度採択者(土屋明美会員)の「中間報告書」を受理しました。研究計画を適正に遂行されています。2020年度採択者はいなかったため、終了報告書に相当する「経費執行報告書(含む領収書)」の提出はありませんでした。

本制度は研究に専心できるように、諸手続を可能な限り簡便に設計した魅力的な研究助成制度です。来年度多数の申請を期待しております。

(局長 成田健太郎)

◆編集局

『書学書道史研究』第32号の編集について

昨秋『書学書道史研究』第32号を刊行いたしました。8件の採択論文および「学界展望」「書評」を掲載しております。次号の投稿締め切りは令和5年3月末日となっております。学会ホームページの投稿規定・執筆要領をご確認のうえ、ふるって応募ください。

書評で取り上げるべき図書の推薦や紹介、その他原稿に関するご意見お問い合わせは随時、編集局までお寄せください。(局長 萱のり子)

◆事務局

修了などにより学籍を離れる予定の方へ

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。「会員変更申込書」の提出により一般会員資格の付与などが行われますので、今春に学籍を離れる場合は、必ずご提出ください。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。なお、申込書下部の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会承認」各欄の記入は不要です。書類送付やお問い合わせは、4ページ記載の事務局までお願いいたします。

会名簿発行に伴う情報提供のお願い

昨年度、会名簿が発行されました。ご住所ご所属・会員種別等の変更や修正がございましたら、事務局までご連絡くださるようお願い申し上げます。また、転居や所属の変更があった会員を「存じ」の場合は、本人に確認の上、事務局までお知らせいただけましたら幸いです。

令和3年度事業・活動報告

4月25日 令和3年度第1回常任理事会(オンライン会議)

5月11日 令和3年度第1回理事会(メール会議)

6月1日 第41号《会報》発行及び発送

6月1日 「研究促進助成金制度」申請受付(7日)

7月2日 令和2年度決算会計監査

7月4日 令和3年度第2回常任理事会(オンライン会議)

8月2日 令和3年度第3回常任理事会(メール会議)

10月30日 令和3年度第2回理事会(定例)(オンライン会議)

10月31日 大会・研究発表(オンライン配信)

10月31日 第31号『書学書道史研究』発行及び発送

11月28日 令和3年度総会(書類送付による審議・報告)

12月31日 第32号『書学書道史研究』投稿申込締め切り

1月15日 第42号《会報》発行及び発送

1月29日 令和3年度第3回理事会(オンライン会議)

2月2日 令和3年度臨時総会(書類送付による審議・報告)

3月1日 第16期名簿発行及び発送

3月17日 第17期役員選挙投票締め切り

3月18日 第17期役員選挙開票

3月21日 選挙選出理事による緊急懇談会(メール協議)

3月27日 第16期・第17期新旧役員合同理事会(オンライン会議)

3月31日 第32号『書学書道史研究』投稿原稿締め切り

令和4年度事業・活動計画

4月10日 第1回常任理事会(オンライン会議)

4月24日 第1回理事会(オンライン会議)

5月15日 第43号《会報》発行及び発送

6月1日 「研究促進助成金制度」申請受付(7日)

6月30日 第32回大会発表申込締切

7月1日 2022年度例会(オンライン配信)(30日)

7月5日 令和3年度決算会計監査

7月10日 第2回常任理事会(オンライン会議)

8月24日 第2回理事会(メール会議)

9月26日 《大会最終案内》《大会レジュメ集》発行及び発送

10月29日 第3回理事会(定例)(於盛岡大学)

10月29日 令和4年度総会(於盛岡大学)

10月30日 第32回大会1日目(於盛岡大学)

10月30日 第32回大会2日目(於盛岡大学)

10月31日 第32号『書学書道史研究』発行及び発送

12月25日 第4回理事会(オンライン会議)

12月31日 第33号『書学書道史研究』投稿申込締め切り

1月15日 第44号《会報》発行及び発送

3月31日 第33号『書学書道史研究』投稿原稿締め切り(以上は執行済み)(局長 尾川明穂)

新入会員紹介

事務局

◆一般会員

土井伸也(北海道教育大学)

◆学生会員

柯輝煌(東京大学大学院)

王国強(宇都宮大学大学院)

※令和4年4月〜12月に申請された方



追悼 西林昭一先生



河南省文物考古研究所
(修復室)にて(2007年)

令和4年7月8日、西林昭一先生が90歳で他界されました。その3週間前にご自宅でお目にかかったばかりでしたので、訃報に接し思わず耳を疑いました。

和歌山県出身の先生は、書家の父に幼少期より書の手ほどきを受け、1953年、書家を志して上京されました。先生の書学の根底には松井如流・宇野雪村両大家、あるいは真田但馬・田邊齊廬両先生の影響が少なからずあります。1979年から刊行された書学誌『不手非止』は先生にとって精神的に充実した場であったと思われる。また、1980年ころから月に1度の読書会を主宰し、若手の育成にも尽力されました。先生の指導は妥協を許さない厳しいものでした。しかし、全力で学ぼうとする者に対しては常に温かい眼差しを注がれました。玉著『翁方綱の書字―訳注「蘇齋筆記」』はこの輪読がベースになっています。

さて、書学書道史学会に話を移しましょう。本学会は、1990年4月1日に正式に発足し、東京大学を会場にした第1回大会は同年9月に開催されました。このとき理事長に選出されたのが西林先生です。以後5期10年にわたって学会を牽引され、斯界の発展に貢献されました。実をいいますと、理事長就任にあたりこれまで長らく関係されていた毎日書道会(審査会員)を

退会されたのでした。というのも、学会理事長は書道界での中立の立場を貫くべきであるとのお考えからだったと思います。

続いて中国に目を転じます。1994年、文物出版社主催で初の中日書法史論国際研討会が北京の東郊(通県)で開催されました。日本からは西林理事長をはじめとする学会関係者が20名ほど参加しましたが、これによって中国の書学研究者との交流が促進されました。以降、2年ごとに開催されたこの国際研討会に欠かさず出席された先生は、多くの知己を得ました。2000年には日本で国際大会を開催することとなり、学会の総力を挙げた結果、9月中旬の2日間で総勢375名(海外からは約60名)の参加者を得て、72名が多彩な研究発表を行いました。初日、先生は「日本における漢字の受容と書の形成」という演題で基調講演をなされました。高野山の麓で生まれ育った先生は、海外からの参加者に日本の書道文化を紹介したいという強い想いを持たれたようです。

先生の業績は膨大であり、逐一挙げることはできないため、主なものをいくつか記してみます。『書の文化史(上・中・下)』『ヴィジュアル書芸術全集』『中国法書選』『中国法書ガイド』『中国歴史博物館蔵法書大観』(全15巻、日本版監修)『簡牘名蹟選』など多数あります。とりわけ畢生の大作となったのは5年余りの歳月を費やして77歳のときに完成をみた『中国書道文化辞典』です。八千に及ぶ見出し項目のほか、書道史年表や術語にもページを割いて一冊に仕上げられたものです。70歳で退職後、「南田閑人」(お住まいの住所が南田中)と号されましたが、辞典の執筆依頼を受けてからは、発信される書簡に「南田忙人」と署名されていました。この時期は睡眠時間を削って机にしがみつくと毎日が続いたと、私家版『行々而書』で述懐されています。

本学会はもとより、書道界の学術方面に遺された功績は計り知れないものがあります。在りし日の御恩に対し深く感謝の意を表するとともに、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(横田恭三)

令和4年度本学会関係者科学研究費採択一覧

広報局

基盤研究(S) 継続(平成30) シナリチベット諸語の歴史的展開と言語類型地理論 大西克也(東京大学) ※代表: 池田巧(京都大学) 3,700千円

基盤研究(S) 継続(平成30) 木簡等の研究資源オープンデータ化を通じた参加加誘発型研究スキーム確立による知の展開 中村寛(東京大学) ※代表: 馬場基(独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所) 24,180千円

基盤研究(S) 継続(令和3) シルクロードの国際交易都市スィヤブの成立と変遷ー農耕都市空間と遊牧民世界の共存ー 福井淳哉(帝京大学) ※代表: 山内和也(帝京大学) 2,510千円

基盤研究(A) 継続(令和2) 「奈良朝勅定一切絵」の総合的研究ー漢文仏教テキストの資料的基盤の再構築に向けてー 赤尾栄慶(国際仏教学大学院大学) ※代表: 落合俊典(国際仏教学大学院大学) 7,410千円

基盤研究(A) 継続(令和2) コンテキストに応じた人文科学データパッケージ化に関する研究 中村寛(東京大学) ※代表: 山家信樹(東京大学) 8,710千円

基盤研究(A) 継続(令和3) 漢文大蔵経の文献学的研究基盤の構築: 『大正新脩大蔵経』底本・校本DBの活用と拡充 中村寛(東京大学) ※代表: 會谷佳光(公益財団法人東洋文庫) 9,100千円

基盤研究(A) 継続(令和3) 断片的史料情報の集積と歴史知識情報の相互参照体制の確立による新たな史料学構築研究 中村寛(東京大学) ※代表: 西田友広(東京大学) 14,820千円

基盤研究(A) 新規 荘園絵図調査・解析方法に関する総合的研究と汎用的な歴史地理情報への応用研究 中村寛(東京大学) ※代表: 井上聡(東京大学) 11,720千円

基盤研究(B) 継続(平成30) 中国語における文法的意味の史的変遷とその要因についての総合的研究 大西克也(東京大学) 2,860千円

基盤研究(B) 継続(令和元) 「儒教美術史」構築のための発展的研究ー東アジア文化圏の構造解釈と研究資源化 尾川明穂(筑波大学) ※代表: 水野裕史(筑波大学) 2,990千円

基盤研究(B) 継続(令和元) 敦煌書儀・六朝尺牘文獻の古代日本への受容実態の展開 小林比呂代(信州大学) ※代表: 西一夫(信州大学) 2,730千円

基盤研究(B) 継続(令和元) 戦国秦漢簡牘の総合的研究ー安大簡・清華簡・上博簡・北大簡を中心としてー 福田哲之(島根大学) ※代表: 湯浅邦弘(大阪大学) 4,160千円

基盤研究(B) 継続(令和2) 美術鑑賞学習指導体系の構築に関する実践的研究 萱のり子(奈良教育大学) ※代表: 松岡宏明(大阪総合保育大学) 3,380千円

基盤研究(B) 継続(令和2) 中国書画における題跋等の付属資料に関する総合的研究 代表: 富田淳(独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 分担: 六人部克典(独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 鍋島福子(独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 3,260千円

基盤研究(B) 継続(令和3) 形象の記述ー記録についての比較美術史的研究 板倉聖哲(東京大学) ※代表: 秋山聰(東京大学) 5,360千円

基盤研究(B) 継続(令和3) 「水墨画」と「彩色画」ー1945年以降の東アジアにおける絵画表現に関する調査研究 板倉聖哲(東京大学) ※代表: 荒井経(東京芸術大学) 3,770千円

基盤研究(B) 継続(令和3) デジタル文学地図の構築と日本古典文学研究ー古典教育への展開 中村寛(東京大学) ※代表: 飯倉洋(大阪大学) 2,890千円

基盤研究(B) 新規 日本近世史料学の再構築ー基幹史料集の多角的利用環境形成と社会連携を通じて 中村寛(東京大学) ※代表: 杉本史子(山田史子)(東京大学) 6,370千円

基盤研究(B) 新規 戦前・戦中の報道写真を用いたストーリーテリング・デジタルアーカイブのデザイン 中村寛(東京大学) ※代表: 渡邊英徳(東京大学) 3,350千円

基盤研究(B) 新規 前近代日本の「万国人物図」群が示す人種観と世界観に関する総合人文学的研究 成田健太郎(京都大学) ※代表: 杉浦和子(京都大学) 5,560千円

基盤研究(C) 継続(令和元) 関西中国書画碑帖コレクション形成の研究ー未公開資料の分析を中心としてー 下田章平(相模女子大学) 910千円

基盤研究(C) 継続(令和2) 近代朝鮮における「書」の創出と展開ー官僚出身書家の動向を中心にー 金書粉(大阪経済法科大学) 780千円

基盤研究(C) 継続(令和2) 書字基礎データ採取のための調査研究 鈴木慶子(長崎大学) 780千円

基盤研究(C) 継続(令和2) 近世書論を基盤とする「日本書論史」の展開 永田徳夫(群馬大学) 1,020千円

基盤研究(C) 継続(令和3) 在日コリアンハンセン病回復者・超高齢者コホートによる被差別経験と健康影響の解明 金書粉(津田塾大学) ※代表: 文鐘聲(畿央大学) 1,260千円

基盤研究(C) 継続(令和3) 東アジアにおける書教育に関わる教員養成学構築のための比較研究 草津祐介(都留文科大学) ※代表: 加藤泰弘(東京学芸大学) 850千円

基盤研究(C) 継続(令和3) 比較書学教育研究に基づくと利き者に有効な書写学習モデルの開発 小林比呂代(信州大学) 1,420千円

基盤研究(C) 継続(令和3) 「文字文化」としての手書き文字の総合的理解および学習方略の研究 清水文博(山梨大学) 1,040千円

基盤研究(C) 継続(令和3) 論理的記述力を涵養するための教育方法確立に関する基礎研究 鈴木慶子(長崎大学) ※代表: 林篤裕(名古屋工業大学) 2,800千円

基盤研究(C) 継続(令和3) 「PenはKeyboardより強し」なのか 鈴木慶子(長崎大学) ※代表: 千々岩弘一(鹿児島国際大学) 1,950千円

基盤研究(C) 継続(令和3) 古代エジプト神官文字写本の地域差を含めた言語記述とIIRIF検索プラットフォームの構築 中村寛(東京大学) ※代表: 永井正勝(東京大学) 1,630千円

基盤研究(C) 継続(令和3) 中国と日本の書画における表装文化の総合的研究 代表: 鍋島福子(独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 分担: 宣田淳(独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館) 1,560千円

教育の実践的研究ー教員の「学び観」形成を軸にして萱のり子(奈良教育大学) 510千円

基盤研究(C) 新規 小学校入学時の書字における課題の解決に向けたプログラム開発 齋木久美(茨城大学) 1,030千円

基盤研究(C) 新規 清代の書論における図譜の展開の基礎的研究 高橋佑太(筑波大学) 1,430千円

基盤研究(C) 新規 水運による新書体形成過程の解明ー墓誌と造像題記の差異を読むー 東賢司(愛媛大学) 1,030千円

基盤研究(C) 新規 小学校国語科書写における硬筆・毛筆動画教材および授業モデル解説動画の作成 樋口咲子(千葉大学) 1,500千円

基盤研究(C) 新規 江戸期における右字系筆順と左字系筆順の書き分けの合理性に関する研究 松本仁志(広島大学) 910千円

若手研究 継続(令和3) 書字教育の基礎概念としての字体・字形とその歴史の変遷 杉山勇人(鎌倉女子大学短期大学部) 360千円

若手研究 継続(令和3) 持続性と利活用性を考慮したデジタルアーカイブシステム構築手法の開発 中村寛(東京大学) 910千円

若手研究 継続(令和3) 日本書道史の「和様」に関する文献学的研究 柳田さやか(東京藝術大学) 780千円

挑戦的研究(萌芽) 継続(令和3) 古典書跡に注目した手指書字運動の解析とアーカイブ化 尾川明穂(筑波大学) 1,170千円

研究活動スタート支援 継続(令和3) 内藤湖南の東洋芸術論ー画論・書論・印学・金石学等領域に対する学問的貢献ー 石永峰(関西大学) 1,430千円

*本学会員の採択課題に限ったが、会員が研究分担者で、研究代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題に関しては、当該課題のもとに代表者と分担者との補助金の配分額。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、事業期間を本年度まで延長した課題については、()に挙げていない。

談話室

これからの書において

尾西 正成

今日、書は発展を続けますが次世代に繋いでいくことは容易ではありません。

私の拙作は鑑賞してくれる人がいて完成に到り、鑑賞者は書作の仲間だと思っています。岡倉天心の「真の美」というものは、不完全なものを前にしてそれを中心の中で完全なものに仕上げようとする精神の働きにこそ見いだされる」という指摘も味わい深いものです。

「書は難しい」、そんな時に作品と鑑賞者を気軽に繋ぐ術はないか。一つの活動として「対話鑑賞」。コーディネーターが作品と鑑賞者に間に立ってその知識と魅力を提供。鑑賞者はそれを受け取り理解や楽しみを深め独自の鑑賞法を見つけ。「自分だけの楽しみを見つけたい」ということに気づく。このような活動が契機になって書の仲間が増えていけば未来は明るいかと考えます。

晩秋遊記

丁 子成

最近、広島県熊野町にある筆の里工房

へ旅行に行きました。そこで伝統工芸士の南部豊彦先生から筆づくりの12工程のうち、「上毛巻き」と「仕上げ」の2つの工程を学び、体験しました。懇切丁寧に説明してくださって、とても勉強になりました。

南部氏から聞いたところ、従来、伝統工芸士の受験資格には、30年以上の実務経験が必要だったそうですが、現在ではその条件は変わりましたが、まだ12年以上の実務経験が必要です。

筆の里工房で近年ではなかなか見られない様々な形状、材質、装飾、製法の筆を鑑賞することができました。

今後は筆だけではなく、採煙から研ぎ仕上げまでの墨作りや、縁立てから仕上げ彫りまでの硯作りの工程を体験してみたいと思います。

落校サミット福山大会にふれて

寺内 眞道

令和4年11月、「全国藩校サミット」が広島県福山市で開催された。これは江戸の藩校教育再認識と正しい漢字文化継承を謳った大会で、徳川宗家をはじめ旧大名の御子孫たちが顔を揃える。今回は第19回で20年続いている。福山築城400年に合わせたシンポジウムでは、歴代城主の水野・松平・阿部家の御当主、

そこに水戸徳川家がコーディネーターとして加わり、豪華キャストで盛り上がった。幕末、福山藩の功績は大きい。阿部正弘は勝海舟を発掘し、ペリーとも対峙した。書でも人物がいる。虞法の小島成斎だ。この楷法は幕末三舟の高橋泥舟に引き継がれる。数年前、早稲田の会津八一記念博物館に寄贈された「狩谷極斎墓碑」も成斎の筆である。

所変われば品変わる…

星子 桃子

勤務先の名古屋市蓬左文庫が所蔵している鍼灸医学書の拓本「銅人腧穴鍼灸図経」の裏打紙が明代の官文書(檔案)であることが判明。本来廃棄される文書が奇跡的に現存していると、注目を集めた。今後も東洋学の専門家がチームを組んで調査研究を進めていくが、資料の保全や管理は所蔵元の学芸員の責務となる。自分の専門性とはやや異なる資料ではあるが、学生時代のノートやテキストを引っ張り出して拓本の勉強を始めた。勤務先が変われば扱う資料も変わる…近年異動によって洋画や現代美術の取り扱いも経験し、改めて学芸員には所蔵資料にに応じて臨機応変に対応する力も必要なのだと実感している。

編集後記

◆東博の国宝展の帰りに東洋館に立ち寄ると、西林昭一先生寄贈の書画も展示されていました。王鐸、倪元璐だけでなく、宋曹、許友、王了望など、碩学の先生のコレクションの全貌は、どのようなものであったのでしょうか。(高橋佑太)

◆勤務先の五島美術館では今春の優品展で『古今和歌集』の特集展示を開催予定です。調度手本の制作と同時期の11世紀から12世紀の和鏡(守屋孝蔵コレクション)の文様にも目を向けてみると料紙装飾の下絵にも共通する優美な蝶鳥の意匠もあり興味深いです。(佐々木佑記)

◆11月、日中友好会館美術館にて開催されていた『文房清玩展』を拝見しました。文房の愛好家である先生方が収集した文房四宝・作品が数多く展示されており、高価なものから、初めて見るような形態のものまで、様々な姿をした文房に心躍りながら鑑賞させていただきました。(村田 萌)

◆大規模な特別展などでは予約制を導入する館が増え、人並みを掻き分けてケースに食らいつく必要がなくなりました。危機からの学びが少しだけ新しい鑑賞の在り方を定着させたようです。(高橋利郎)